

普及活動検討会実施報告書

石巻農業改良普及センター

実施月日：令和7年1月31日

実施場所：石巻合同庁舎

1 検討内容

No	検 討 項 目
1	プロNo.1 産地を形成する多様な担い手ステップアップによるいちごの産出額向上
2	プロNo.2 小ねぎ産地における次世代の人材育成
3	プロNo.3 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産
4	プロNo.4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上
5	普及計画 令和7年度普及指導計画について
6	新規プロ トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築支援

2 検討委員の構成

(単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	2	生 活 者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市 町 村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
上記1-No.1 (プロ1)	4.4	・最終年となるプロジェクト課題で、これまでの活動、成果が発表された中で、検討会で意見が出た生産額の向上が経常利益などにどう反映するかなども含めて今後の課題としてもらいたい。 ・JA部会、各法人、新規参入者それぞれの抱える課題に向き合う支援で、技術の改善、向上が図られ、単価の高い12月の収量増、収益増につながりよかったですと思います。 ・年々収穫量、収益共に上がっている。炭そ病が大発生した法人もあったので、今後の病虫害防除の指導を徹底して欲しい。 ・生産主体ごとにキメ細かく指導され、確実に成果につながっている点は素晴らしいと思います。JA部会は個人農家ですが、環境測定装置に対する設備投資額の負担が気になります。各法人においては、今後は利益率や労働生産性の切り口による分析が求められます。	・資材費等が高騰し経営が圧迫されている昨今、生産額のみならず、営業利益・経常利益、労働生産性等の観点を持ち経営を見ていけるよう生産者と検討してまいります。 ・育苗期間や定植初期など、病害発生要注意時期に発生しないよう苗の管理や防除対策を徹底するよう周知を図ってまいります。 ・環境測定装置を導入することにより、きめ細かな栽培管理が可能

		・高齢化による栽培面積減少を補うための施策を地域機関と連携して協働で取り組む事業計画を定性的目標に加味すると良いと思う。（若手社員の研修何人？）前回同様、売上高ではなく、経常利益がどのくらい伸びたのかが重要だと感じた。 ・環境制御技術の活用促進や定植後の栽培管理の徹底などにより、単価の高い時期での出荷が増加し、販売金額が上昇していることは、活動の成果と思われます。 ・プロジェクト活動の実施により、環境制御やハウスの管理等の技術向上に向けた支援で、いちごの収量及び産出額の向上が図られたことは評価できる。引き続き持続的な技術支援、経営改善支援等をお願いします。 ・価格の高騰もありますが、新規参入の法人の実績が上がっているのが評価できます。高温・病害虫対策等の技術及び経営面についても引き続き指導をお願いします。	となり、生産量が向上することから、個人負担を軽減するため、部会として県補助事業を活用することも検討していきます。 ・栽培面積減少に対応する施策を地域機関と連携して取り組むことも今後検討します。 ・温暖化による気温上昇は、花芽分化の不斉一化、病害虫発生期間の長期化など、いちごの生産にも大きな影響を及ぼしております。対策等について引き続き生産者と一緒になって対応してまいります。
上記 1-No. 2 (プロ 2)	4. 1	・プロジェクト 2 年目で確実にステップアップしていると思う。最終年度今後確実に人材育成ができるよう、様々な活動を通して成果に繋げて欲しいと感じた。 ・対話を繰り返すことで生産者自身が課題を認識し解決に向け自発的に動くとするきっかけを作ったことはとても良かったと思います。今後の部会の発展につながると期待します。秋保ワイナリーのような情報発信も上手でワインと県産食材を楽しませてくれるところでスリムねぎを使ってもらい、シャキシャキとした食感の美味しさを知ってもらい、広めてもらい、スーパーでの購入につながるようなことができれば、生産者のモチベーションが上がる気もします。地元石巻でも桃生のえごまポークとあわせ紹介してくれる飲食店を増やせると良いかと。 ・異業種とのイベント共同開催によって販路拡大を期待できる。会員の高齢化によっての人材不足に不安を感じる。家族経営の他にも事業を展開できる要素を見つけて欲しい。 ・生産者に寄り添った手厚い支援が行われていると感じました。次世代の育成と併せて、今後は事業承継についてのサポートが必要になると思われます。円滑な継承が進まない限り、次世代の活躍の場が確保できないためです。 ・10 年後のデータがある程度正しいのであれば、次世代の人材育成は未来への投資なので、青年部がベテラン農家とのハブとなっていくと良いと感じた。そのためには、選別場は必須に思うので、補助金など含めて資金調達	・若い部会員の意欲向上には、新たな販路拡大の取組も重要と考えます。合同庁舎での水産の日での販売等、機会を捉えて引き続き検討してまいります。 ・部会員の減少は、部会員の方々も最重要課題として捉えられており、部会員を新たに迎え入れることも必要です。選別場の整備は、承継における課題に際しても有効な打開策と思われ、部会員による議論を円滑に進められるよう、支援してまいります。 ・当方といたしましても、部会員個人の、生産者としての能力向上を実感しております。高温等の環境変化に対応できる技術力や、資材高騰下を乗り切る経営感覚の習得を目指し、青年部員個人の課題に向き合ってまいります。

		に努めてほしいと思った。 ・次世代の育成と気候変動に対応するための対策技術の取組は産地維持に向けた大変有意義な活動であると思われます。 ・プロジェクト活動の実施により、次世代を担う若手である青年部が中心となり高温対策に取り組み知見が高まったことは評価できる。引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等に務め人材育成の指導をお願いします。 ・個別の課題分析及び巡回指導等により、青年部の意欲向上や自己改善に向かったのは評価できます。巡回指導は今後も継続してください。また、選別場導入については、今後産地を維持していくためには必要と考えておりますので、連携をとりながら、進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。	
上記 1-No. 3 (プロ 3)	3. 8	・令和 6 年産の米価高値や気候の温暖化、水害の発生など、土地利用型農業を取り巻く環境が厳しい中、水田利用のばれいしょやさつまいもの生産が定着するか今後の普及活動に期待したい。 ・様々な検討会や指導を行うことで排水性の良いほ場づくりができ、カルビーからも石巻が一番良いと評価されるなど良い活動だったと思います。ポテト通信も良いと思います。 ・収穫量が上がっている法人とそうでない法人がある。土地の状態にも関係がと思う。米価が上がっている点から今後の規模拡大は難しいと思う。 ・転作作物としてのばれいしょ・さつまいもの可能性を拡げる有意義な取り組みだと感じました。一方で、排水対策や労働力確保の面で、作付面積の拡大には一定の限界があるように思われます。収益性の面で、大豆等他の転作作物と比較したデータをご提示いただきたかったところです。 ・収量伸び悩んでいるとのことで、技術研修や現地検討会を継続していくことも重要だと思う反面、全国的にさつまいもなどは東北・北海道が適地となっていており、生産者も増加していくことを見込んで、ネットワーク作りも必要ではないかと思う。 ・ばれいしょ、さつまいもの安定生産に向け、排水対策や更なる栽培技術の向上に向けた活動を期待します。 ・プロジェクト活動の実施により、安定生産に向けての排水対策や病虫害防除等が適切に行われ、収益性を確保する目安の実績となったことは評価できる。引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いします。また、ポテト通信によるプロジェクトの取り組みの情報発信も引き続きお願いします。	・加工用ばれいしょとさつまいも生産が定着・拡大するようほ場選定や排水対策、施肥管理、病虫害防除など栽培技術面から生産者を支援してまいります。 ・法人毎のニーズや課題を踏まえながら、個別に丁寧に対応してまいります。 ・加工用ばれいしょは長ねぎやえだまめなど他の転作野菜と比べて労働時間あたり所得が高い作物です。目標収量を得られれば、確実に農家所得を向上させることのできる作物ですので目標収量を確保できるよう指導いたします。 ・加工用ばれいしょの契約先であるカルビーポテト社から各地の情報等を得ながら、各産地とのネットワークの構築も検討してまいります。

		安定生産にむけて、引き続き排水対策及び病虫害防除対策の指導をお願いします。JA としては、ばれいしょの作付を 100ha 目標にしておりますので、関係機関と連携して進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。	
上記 1-No. 4 (プロ 4)	3. 9	- 年々厳しい環境の中、種子用大豆の生産を担う生産組織が減少する中で、なんとか省力化技術の普及や現地検討などのサポートによりプロジェクトの成果を上げて欲しいと思う。 - 情報提供によってアグリテックの活用による利点が浸透し、導入を検討する動きにつながったことや栽培シートの活用など良かったと思います。手選別作業の省力化が図られることに期待したいです。 - 夏の猛暑の影響で収量が思うように上がらない中、種子の栽培を続けていただけることに感謝。手選別なので、早急に色彩選別機の導入を進めていくべき。 - 収量が増加した生産組織が着実に増えているのは、指導の成果によるものと評価できます。一方で、収量が減少した組織の減収要因も分析しておくべきだと思いました。また収量の増加が、利益増加に結びついているのかも知りたいところです。 - 適地での強い品種に絞って栽培計画を立てることや、他地域での事例をマーケティングしながら、アグリテックや IT を活用した選別方法をリサーチしていくことが必要ではないかと思った。せっかく県内有数の地域（石巻）として種子大豆が守られる作物として広く知ってもらう機会もあると良いと感じた - 更なる品質、収量向上に向けた技術指導や省力化に向けた機械導入指導を期待します。 - プロジェクト活動の実施により、種子選別の負担の課題解決に向けての検討等が進み、令和 6 年度では 4 / 7 組織が令和 5 年度より 10 % 以上増収したことは評価できる。種子大豆の収量確保・品質向上のため、引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いします。 - 大豆種子については、手選別が大きな負担となっております。大豆種子生産者を継続してもらう為には、機械選別（色選）を取り入れていくことが必要ですので、指導を引き続きお願いします。	- チェックシートを回収し、実行できなかった項目は、なぜ実行できなかったかの、出来るようにするには、どうするか、必要なチェック項目であったかなど、追加すべきチェック項目なども含め改善していきます。 - 現状の色彩選別機のみでは、どうしても選別できない部分もありますが、手選別の省力化のため、色彩選別機の有効利用を検討していきます。 - 収量減の要因をしっかりと分析し、次年度以降の指導を行います。 - 紫斑病に強い品種への変更を望んでおりますが、需要側からの要望もあり県としても変更できない状況です。需要側との調整も非常に重要なことでありますので、継続して要望していきます。 - 他的大豆産地での種子生産の手法についてリサーチし、管内での導入可能性について検討していきます。 - 今後も継続して、省力化技術や現地での支援など実施してまいります。
上記 1-No. 5 (普及計画)	4. 0	- プロジェクト活動、重点課題と、今後の石巻地域の農業振興のために強く押し進めて欲しい。 - 様々な課題解決に向け細やかな計画が立てられていると思います。現場に	プロジェクト課題は普及指導員一丸となり、チーム体制を組んで取り組む最重要課題となっております

		足を運び対話を重ね、それぞれの課題解決に向け御支援をお願いします。 ・農家の手取り収入増を支援、企画していただき感謝しています。稲作指導も夏場の高温で大変ご苦勞だとは思いますが、是非乾田直播の技術指導をさらに強化していただきたい。 ・県の施策からブレークダウンして、具体的な指導計画に至る施策体系の関連がよくわかりました。令和 7 年度も着実な実行をお願いいたします。A 3 版の体系図のなかで、施策間をつなぐ関連の線が交錯して見づらくなっています。 ・農福連携によって労働力不足による担い手として広く周知されてきているものの、福祉側と農業側の専門性の違いからも互助のシステムとして機能すると良いと思う。乾田直播栽培農家が増加傾向にあり、担い手不足解消の一助にもなることから技術支援がさらに進むと良いと思った。 ・法人化が進展しており、法人の果たす役割が大きくなっていると感じていますので、法人の経営安定化や法人化に向けた指導に期待します。 ・石巻地域普及指導基本方針に基づき、時代のニーズに対応した地域資源、地域の特色を生かした営農、所得確保等に向けた技術支援や経営改善支援等をお願いします。 ・管内の水稻乾田直播は、1,300ha まで拡大しており今後も拡大が想定されますし、直播玉葱についても JA としても力を入れておりますので、更なる技術向上等を図っていきたいと思いますので関係機関の連携を引き続きよろしくお願いします。	おります。現場の課題解決に向け、農業者、関係機関の方々と連携を取りながら、今後もすすめて参ります。 ・乾田直播栽培は稲作作業の省力化につながるほか、規模拡大や多品目導入の可能性、人材不足にも対応する技術です。現場への普及に向け、栽培技術が定着するように支援して参ります。 ・農福連携については、今後さらに顕著になる人材不足への一助となる有効なシステムと捉えています。農福連携のロールモデルとなるような、「農福連携モデル」を設置するなど、定着に向け支援を実施して参ります。 ・地域を担う担い手として、農業法人の存在、役割、期待は益々大きくなっています。その分経営の安定化は必須なものとなります。今後も経営の安定化に向けた経営管理能力の向上支援に努めて参ります。 ・水田直播栽培、直播たまねぎ等、普及拡大に向けては技術の確立、定着が不可欠と捉えております。今後も関係機関と連携を取りながら、技術支援を徹底して参ります。
上記 1-No. 6 (新規プロ)	4. 0	・石巻地域、全国的にも問題が深刻になっているトマト黄化葉巻病対策は県内一のトマト産地を守るためにも是非成果を上げて欲しい。 ・R 7, R 8 の活動のスケジュール、良いと思います。大きな問題、被害とならないよう情報提供、個別巡回をお願いします。週 2 くらいで粘着くんなどで気門封鎖で絶対量を減らす作戦はどうでしょう。	・定期的な巡回や支援対象者を募集した年 2 回の情報交換会等による検討を重ね、実用的な石巻圏域の「タバココナジラミ防除マニュアル」(仮称)を作成して

		・作物の病原体は南から北上するとのこと。情報をいち早く農家に伝授していただき、今後も指導いただきたいと思う。 ・トマトは石巻地域の重要な作物であり、その生産を脅かす害虫対策は、必要性・緊急性が高い課題だと思われます。西日本の事例等も収集・分析した上で効果的な防除策を確立し、早急な着手をお願いします。 ・技術向上に努めていくことは重要であるがかつ、県内 1 位の出荷量のトマトをもっと石巻圏域でブランディングしていき広く多くの消費者に知ってもらうことも生産者の励みにもなり、売上向上にもつながると思った。 ・石巻地域の重要産品であるトマト栽培に影響を与える害虫対策となりますので、先行事例等を参考とし、害虫対策が徹底される活動となるよう期待します。 ・プロジェクト活動（新規）の実施において、トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築支援に対し、先進地事例を参考に防除対策等の構築に取り組めるよう技術支援をお願いします。 ・トマト黄化葉巻病については、大きな問題となっております。早期の防除マニュアルの作成をお願いします。	まいます。 ・気門封鎖剤は散布回数に制限がなく、成虫への効果が高いと言われています。他薬剤等との組み合わせを考えながら、防除対策の一つとして検討してまいります。 ・活動の中で、タバココナジラミの発生消長調査の結果も踏まえ、病害虫の情報提供を行ってまいります。 ・タバココナジラミは西日本では 20 年以上前から問題となっている病害虫で対策マニュアル等も多数公開されていますので、参考にしながら地域に合った防除マニュアルを作成してまいります。 ・石巻圏域のトマトについては、J A など生産者団体や市場関係者との協力により周知に努めてまいります。
その他		・普及センターの先生方の存在は大きいのでこれからもよろしくお願いします。 ・先生から様々な講習会の案内をいただくが、中々日中だと仕事で出席できないので夜の開催を考えていただきたい。 ・皆さんのスライドの作り込みや発表態度が素晴らしかったです。 ・異常気象（特に高温障害）については、作物全体の喫緊の課題となりますので、関係機関の連携とって取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。	・今後も農業者、関係機関の方とともに農業現場の課題解決に向けた活動を展開して参ります。 ・講習会、研修会等、農業者の方々が参加しやすい環境作りを検討して参りたいと思います。 ・異常気象対策についてはどの作物においても喫緊の課題と捉えております。試験研究機関との連携や他産地の情報収集を徹底し、現場に行かせる技術情報を逸早く繋ぐよう努力して参ります。